

事例 6 広葉樹の保残を通じた生物多様性保全への取組

(北海道森林管理局 空知森林管理署北空知支署)



アカゲラ



ハシブトガラ

- 北海道雨竜郡北竜町 美葉牛国有林
- (左) 保残した広葉樹(令和5(2023)年7月)
- (右) 広葉樹保残箇所で観察された森林性鳥類

北海道森林管理局では、生物多様性保全に配慮した森林施業に取り組んでいます。空知森林管理署北空知支署では、この取組の一環として、令和5(2023)年度、美葉牛国有林内に所在するカラマツ人工林の伐採跡地で主伐時に広葉樹を単木保残し針広混交林化を目指している箇所において、鳥類等による保残広葉樹の利用状況を調査しました。

調査の結果、森林性鳥類に関しては、広葉樹を保残した箇所ではそれ以外の箇所に比べ多くの種類が観察でき、保残木の樹冠・幹などを採餌場所やソングポスト*として利用していることが確認されました。

今後も各地において、広葉樹の保残等の施業による生物多様性保全に係る効果の検証を重ね、そうした施業を地域管理経営計画へ反映させるなどし、取組を拡大していけるよう努めていきます。

*鳥類がさえずるために留まる場所。木の梢や杭等の目立つ場所に留まり、異性への求愛行動や縄張りアピールを行う。